令和7年度 香南市学校評価報告書

香南市立香我美幼稚園

経営理念	【保育目標】 みかんの里の げんきっ子 【経営目標】『幼稚園における生活の全体から、豊かな体験を通して生きる力の基礎が身につく幼稚園』をめざす 《子ども像》 ○のびのびと明るく元気な子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども ○友達と心を通わせ思いやりのある子ども ○自分なりに表現する子ども ○最後までやり通す子ども 《幼稚園像》 ○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達とつながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○身近な自然に親しみ豊かな心情や創造力を育む幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 《教師像》 ○子どもに寄り添い深い信頼感や安心感を育くむ教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○環境や人とのかかわりが広がるよう工夫する教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○人間性豊かで指導力の向上に努める教師

	経営目標	今年度の重点目標	評価項目	自己評価 達成状況	評価	関係者評価 考察	評価	改善策等
保育・教育活動の充実	子どもの主体的な学びを保障するための教育活動の実現	遊びや体験を通じた学びの保障に努める	一人一人の発達を促す環境構成の工夫 体を動かす遊びを楽しみ運動能力の基礎を育む	・環境構成の工夫を継続して行ってきたことで、子どもが自ら環境に関わろうとする姿が増えてきた。 ・十分な素材や遊びを用意することで、興味を持って遊び込む子どもが多く見られ、これまでの経験を活かして試行錯誤したり、友達の考えや遊び方を取り入れたりする姿も増えた。 ・取組成果としては、5クラスの平均としては、自ら環境に関わり、遊びを探求（思考錯誤や工夫、挑戦等）する子どもがクラスの60%以上となった。一方で遊びがマンネリ化する場面も見られた。 ・クラス・学年間での運動遊びを週1回・リズム運動やわらべ歌遊びを月2回実施できた。 ・ 取組成果としては、集団遊びや戸外活動を継続したことで集団遊びを楽しむことが多くなったり、集団遊びを通じて体を使って遊ぶ姿も増えた。また、 自分の意志で体を動かす活動を選び、意欲的に取り組む子どもが園全体として増えた。しかし活動への参加や意欲には個人差が見られるため、自ら活動に関わることが難しい子どもについては、十分な対応ができなかった。	B	集団遊びが増え、園庭で体力的なものを求めるだけでなく、室内も活用し、基本的な体遊びが大切にされている。 遊びの楽しさや幼児期らしさを十分に保障すると共に保育者が日常の保育を振り返り、子どもと向き合う姿勢や安全への意識をしっかり共有していって欲しい。	B	教材研修を行い遊び場の保障や用具の提供方法を工夫し、子どもの探求心をさらに引き出す保育を進める。 子どもが安心して参加できる環境づくりや関わり方を工夫し、主体的な参加につながる支援を継続していく。
職員の育成・資質向上や運営	課題に積極的に取組み相互啓発する職員の資質向上	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	子どもの人権を大切にする保育 保育室内外の環境整備・整理・整頓	・①トイレや着脱時等にはプライベートゾーンについて配慮した環境を整える。②いつも支持的な対応で子どもにかかわる。③子どもの名前は丁寧に呼ぶ。④その子らしさを大切にする。（ジェンダーの視点） の4点を全職員で意識して取り組んだ。 ・取組成果としては、着替え時に「恥ずかしい」と訴える子どもに対して間仕切りをする等、個々の思いに応じた配慮が行えるようになった。自分のクラスだけでなく他クラスの子どもに対しても名前の呼び方や声のかけ方を丁寧に行おうとする等、職員の意識が高まった。一方で忙しさや状況により、丁寧な関わりができなかった職員もいた。 ・保護者による学校評価アンケート「教職員は子どもの人権を尊重し、一人一人を大切にした学級づくりに努めていると思いますか」では、「そう思う86%ややそう思う14%」という評価を得た。 ・【園舎内外の環境整備を月2回、保育室の整理整頓を週2回】年間を通して全職員で実施できた。 ・取組成果としては、子どもが自ら遊びへの意欲を示し、家庭から素材を持参したり、保育者に必要なものを伝えたりする姿が増え、子どもの思いや育ちを手掛かりに環境を構成しようする意識が高まった。一方で、若年層の保育士はその日の活動を保証する準備にとどまり、次の遊びへとつながる環境構成まで十分に考えることができなかった。 ・保護者による学校評価アンケート「園舎内や園庭の掃除等、環境整備は行き届いていると思いますか」では、「そう思う91% ややそう思う9%」の 評価であった。	B	・先生方が共通の課題意識をもち、子ども一人一人に丁寧に関わろうとする姿勢が園内の雰囲気から伺うことができる。特に子どもへの声掛けにおいては、優しく包み込むようなニュアンスの言葉遣いや子どもの思いを受け止めようとする関わりが見られる。職員間の協力体制のもと、若手職員も含め、日々前向きに取組んでいることは評価できる。	B	どのような状況においても子どもの人権を意識した関わりが継続していくよう研修で得た学びを保育実践に定着させていく。 子どもの姿や育ちの視点からの記録や事例研修を行い、保育の質向上につなげる。
地域に開かれた園づくり	安全計画ＢＣＰ計画の文章化と見直し体制の確立	職員一人一人の危機対応力の向上	予防的安全対策に努める 災害時の対応マニュアルの見直し・作成	・毎月の避難訓練では地震、火災、不審者対応等を設定し、子どもの年齢や理解に応じた内容で実施するとともに、職員間で役割分担や対応力の向上に努めた。訓練前後には園からのお便り（8回配信）を通して保護者に継続的に配信し、訓練のねらいや子どもの様子を共有してきた。 今年度は防災参観日を企画・実施し、保護者にも実際の訓練を体験してもらうとともに、家庭での防災の備えについて親同士で語り合う時間を設けた。参加率は約半数（46%）であり、取組に関する感想はおおむね高評価であった。 ・取組成果としては、各クラス様々な訓練に取組災害や事故等発生時に必要な防災・防犯スキルを、発達に応じて身に付けた子どもは70%以上であった。子どもたちは非常時の合図を聞いて行動することや年長を中心に自分の身を守る行動を意識した姿が見られるようになった。一方で訓練に慣れることで気が緩む子どもや、訓練の意味を理解することが難しい子どももおり、子どもの実態に応じた関わりや配慮をどうしていくか課題である。 ・BCP（事業継続計画）計画の作成向けて、BCP研修に管理職が参加をしたり、職員も分担し合って様々な研修に参加することができた。夏には①災害発生後を想定した職員体制について確認。②各地区の地図に各家庭の住居場所を可視化し災害時の対応確認の共有。③必要な物資について協議しその結果を踏まえ必要な物資の購入に取り組むことができた。 ・保護者による学校評価アンケート「園は子どもたちが安全に生活できるよう安全指導、避難訓練、不審者対応等、安全、防災、防犯に関する取組 を行えていると思いますか」では「そう思う94% ややそう思う5%」の高評価を得ることができた。	B	・訓練は継続的に実施され、一定の成果は見られるが、状況変化への対応力や職員の役割意識、関係機関との連携に更なる工夫が必要である。	B	実践的な訓練を通して職員の危機対応力を高める。 またBCP計画の作成と共に、安全で安心できる環境の維持、向上に努める。

A：十分満足（90%以上） B：おおむね満足（70～90%） C：もう少し努力すべき（50～70%以上） D：大いに努力が必要（50%以下）